

令和7年度 第1回看護・介護部会研修報告

記載者 老人保健施設はくあい 安藤佳苗

【日時】 令和8年 1月21日(水) 13:30~16:00

【会場】 特別養護老人ホーム まめ舎 地域交流センター

【テーマ】 認知症の不適切な薬物療法

【講師】 老人保健施設 尚歯堂 老人保健施設管理認定医 長嶺敬彦先生

【参加者】 22施設 57名

【内容】

- ・疼痛とうつなどの精神症状、便秘、不眠との関連性や精神疾患と慢性疼痛の関連性について
- ・幸せホルモンと言われているドーパミンであるが制御が必要である
- ・クエチアピンやリスパダールの使用により排便反射を抑制し便秘となる
- ・酸化マグネシウムは便を柔らかくするのに有効だが腎不全の人には注意が必要である
- ・疼痛や認知症の症状の緩和に音楽は有効であり、特に聞きなれているものがよい
- ・デエビゴなどのオレキシン受容拮抗薬は依存性が低いが時に悪夢をみることがある
- ・高齢者に対して相手を思いやってかける優しい言葉を用いる

【質疑応答】

Q1 腸内環境を整えることで認知症状の改善が見込まれるか？

A) 酪酸を生成するミヤB、ビオスリーなどが有効だが、明らかな手応えは得られていない

Q2 ベルソムラ内服でも不眠の利用者がいるが、服用するタイミングはいつがよいのか？

A) 血中濃度が上がるのは2時間後である

Q3 睡眠薬に拮抗する薬はあるか？

A) アムロジピンは関連があるかもしれない

Q4 ヤクルトや納豆など食品でも同様の効果があるか？

A) 薬より効果があると思われる

以上を研修報告とする。講師の長嶺先生、参加していただいた皆様ありがとうございました

